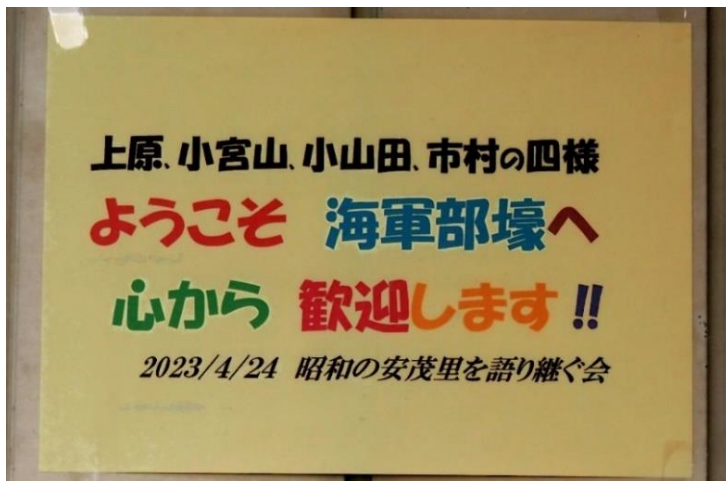


安茂里訪問、そして三二同期会

上原 昇 (2組)

先般、65期HPで、安茂里の旧海軍部壕について、長年、調査・研究を行っている土屋光男君(9組、千曲市在住)を紹介しました。

そんな縁もあり、HP編集者としては是非一度、現地を訪ねてみたいと思っていました。たまたま、GW前に上田に帰省する機会があり、4月24日(月)、同期仲間と連れ立って安茂里を訪れました。集まったメンバーは筆者と土屋君のほか、小宮山健一君(3組、坂城町在住)、市村到君(4組、御代田町在住)、小山田秀士君(7組、丸子在住)。地元4人は時々集まって、郷土史談義を肴に杯を酌み交わしている仲とのこと。当日筆者は、上田駅発11時05分のしなの鉄道に乗車して市村、小山田君と合流すると、坂城で小宮山君が乗ってきました。安茂里までの車中、昔話に花が咲きました。



安茂里駅に着くと、「ようこそ安茂里へ」の横断幕を持った「昭和の安茂里を語り継ぐ会」事務局長の土屋君と仲間の岡村さんの熱い歓迎を受けびっくりしました。(左写真)

早速、2台の車に分乗して小市の海軍部壕資料館へ案内され、掘削当時の遺品や資料が

所狭しと展示されている中で、土屋君から事前レクチャーを受けました。

その後、裏山へ至る階段を登り、壕跡に入って内部を見学。壕内の約10m先は崩落の危険もあり行き止まりです。壕を出て、高台からは遠く旧陸軍壕のある松代方面が一望できます。歴史の足跡を確認した後、土屋君の同志でもある岡村豊・啓子さんご夫妻のご自宅に案内され、そこで奥様の手料理をご馳走になるサプライズ昼食会となりました。それもこれも土屋君のお人柄がなせることと、一同感謝するばかりです。

アルコールも入り、すっかりご機嫌となった面々は安茂里駅まで送ってもらい、有意義な安茂里ツアーを無事に終え、帰路につきました。

歴史の語り部、土屋君の熱心な活動に感服しつつ、こうした歴史遺産を保存して、次の世代に語り継いでいくことの大切さと大変さを改めて知った一日でした。

海軍部壕入口で、左から市村、土屋、上原、小宮山、小山田



壕の内部



懇親会にて：左から小宮山、市村、岡村、土屋、上原、小山田



2023年4月26日記

以上